

富山市総合計画審議会「第3回 人材・暮らし部会」 議事録

日時：2016年9月26日（月）13:15～14:45

場所：富山市役所 第3委員会室

出席者：（順不同）

宮田伸朗	富山国際学園学事顧問（部会長）
江藤裕子	公募委員
桑田由美子	富山市PTA連絡協議会副会長
塩井保彦	公益財団法人富山市体育協会会長
島田一彦	公益社団法人富山市医師会会長
舘内敬子	富山市保健推進員連絡協議会会長
中西彰	富山市公民館連絡協議会会長
見波重尋	婦中地域自治振興連絡協議会会長

企画管理部	本田部長、中田次長、西田次長、前田参事、井村主幹
福祉保健部	中村次長
市民生活部	大森次長
教育委員会	清水教育総務課庶務経理係長
市民病院	古澤事務局次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 第2次富山市総合計画前期基本計画（案）について

○資料「第2次富山市総合計画前期基本計画（案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- ・ 人材、暮らしづくりは守備範囲が広い。事務局からの説明に対してご質問等あれば伺いたい。
- ・ スポーツ分野（59～61ページ）で東京五輪についての記載があるが、パラリンピックについてはどうだろうか。例えば、富山市内で車椅子バスケットができる施設は1箇所しかない。フロアが傷ついて困るということだが、2020年に向けた取り組みとしてパラリンピックの関連についても記載してはどうか。
- ・ 最近、特に中学校などで部活動が先生の業務を一層多忙にしているとも言われている。ソーシャルワーカーやカウンセラーなどと同様に、スポーツの分野でも地域と学校の連携が図れると良いのではないか。

委員

- ・ 障害者競技は障害者の方々が集まる施設を中心に行われているが、地方自治体がどこまで障害者ス

ポーツの施設や指導員を整備できるかという問題もある。パラリンピックを見ていると分かるように、障害者競技の種類は多岐に渡る。国が特定の地域に特定の競技を割り振るならばまだしも、富山市単独で全てをカバーするというのは雲をつかむような話である。

事務局

- 福祉プラザを障害者競技の練習に使用いただいている。最近では藤井友里子選手の練習にも使用いただいた。富山市としても、福祉プラザ利用者に対して障害者スポーツの普及啓発を図っているところである。
- 77 ページの「④障害者の自立と社会参加の促進」にも、スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の拡大を図るということを記載している。

委員

- ・ 資料として、文部科学省が作成した学校図書館に関する報告書素案をお持ちしている。
- ・ 前回の総合計画基本計画では、「学校図書館司書の配置や学校図書の実充により、児童生徒が図書に親しむ機会の拡充を図り、豊かな心や想像力、確かな知識などを育てていきます。(P46)」という記載があった。今回の基本計画には学校図書館についての記載がなくなっている。学校図書の現有率は全国の図書標準に対して 100%達成しているということだが、学校司書については 2006 年以降増員が図られていない。
- ・ 文部科学省の報告書素案では、以下のとおり学校図書館の重要性について言及されている。
 - ・ 3 ページ：学校教育法では、義務教育の目標として読書に親しませることが規定されており、また、いわゆる学力の三要素として、基礎的な知識及び技術の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力の育成、主体的に学習に取り組む態度の養成が規定されている。学校教育において、学校図書館は読書を通じた豊かな心の育成とともに、確かな学力の育成の基盤となる重要な機能を有している。
 - ・ 4 ページ：学校図書館に期待されている役割を最大限に果たすことができるようにするためには、学校図書館における図書館資料の実充と、学校図書館の運営等に当たる司書教諭及び学校司書の配置の実充やその資質能力の向上の双方を図ることが極めて重要である。
 - ・ 22 ページ：教育委員会において、今後定められる「学校図書館ガイドライン」を踏まえ、学校図書館の実充に向けた施策を推進することが期待される。特に、教育委員会は校長を学校図書館長として指名するなど、校長のリーダーシップの下、学校が学校図書館の機能を十分に利活用できるよう支援することが重要である。
 - ・ 23 ページ：学校司書の配置については、職務が十分に果たせるよう、その実充に向けた取組とともに、学校司書の職務の内容が専門的知識及び技能を必要とするものであることから、継続的な勤務に基づく知識や経験の蓄積が求められることを踏まえ、一定の資質を備えた学校司書の配置やその支援を継続して行うことが求められる。
- ・ 新たな学校図書館法が制定された背景には、21 世紀型学力や大学入試改革、アクティブラーニング等の推進など、学校が大きく変わっていかうとしていることがある。
- ・ 資料の最後のページには、石川県と富山県の学校図書館の司書配置状況を記載している。石川県白山市には全国学力テストの結果が優秀だったことから文部科学省の視察が入り、その際に正規司書の配置が評価されたというように聞いている。富山県内で週 5 日の 1 校専任の学校司書を配置して

いるのは射水市、小矢部市、砺波市のみだが、授業との連携を考えると複数校の兼任ではなく、1校専任の司書を配置することが望ましい。

- ・ 富山県内では多い小学校でも学校司書による授業支援は年間 148 時間だが、授業支援の最も盛んな岡山市では、多いところで年間 730 時間の授業支援が行われていると聞いている。これは教育格差と言える数字ではないか。
- ・ 全国学力調査の結果を見ても、全国平均と富山市平均の差が縮小してきている。こうした状況を踏まえると、総合計画に学校図書館の充実が挙げられないということは大きな問題があるのではないか。前回の計画にあった記述を再度挙げていただくとともに、施策として学校司書の増員を盛り込んでいただきたい。

事務局

- 記載が削除された経緯については確認するが、富山市教育振興基本計画では学校図書館の充実について記載している。総合計画基本計画と個別計画の整合性は検討する必要があるだろう。
- 図書の現有率や学校司書の配置については教育委員会で毎年点検評価を行っている。現有率は小中学校全体で 100%を達成しているが、今後も図書の更新などを含めて取り組みを続けていく必要がある。学校司書の充実については、平成 27 年度以降、12 学級以上の全小中学校での司書教諭の配置を取り組んできた。
- 学校司書は児童数に応じて非常勤嘱託職員も配置しているが、いただいたご意見については担当課と検討の上、対応策を考えたい。

部会長

- ・ 配置基準は満たしているのか。

事務局

- 12 学級以上の学校については配置している。

委員

- ・ 司書教諭は担任をしながら図書館の活動を行うことになるため、専任司書に比べて活動が制限されてしまう。

部会長

- ・ 図書館の機能は学校教育の根幹である。個別計画とのバランスについてはその時々で異なるだろう。ご意見を踏まえて検討いただければと思う。

委員

- ・ 先日、市内中学校のキャリア教育に参加した。「14 歳の挑戦」に先立ち、中学校 1 年生からキャリア教育を行っているそうだが、呉羽中学校では 10 年前から取り組んでいる一方、西部中学校では昨年からは取り組みを始めたと聞いた。なぜ地域によって差があるのか。富山市がリーダーシップをとられているのか。

委員

- ・ 富山経済同友会等の経済団体では、小中高等学校に対する講師派遣を行っている。案内は出しているが、実施するかどうかはおそらく学校ごとの判断になるのではないか。学校のカリキュラムの組み方にもよるかもしれない。

委員

- ・ 最近の学生に将来の夢を聞くと、「なりたいものがない」という言葉が返ってくる。中学1年生からのキャリア教育にしる、子どもたちがどういった職業人として歩んでいけば良いのか。

委員

- ・ 「14歳の挑戦」は氷見市をはじめ、富山県でも定着した取り組みとなっている。必ずしも希望と実際の受け入れ先がマッチしているかは分からないが、担任や親、学校からも1週間の体験によって子どもの社会を見る目が変わってきたといった声を聞いている。

部会長

- ・ 中学1年生で行う事前指導については、学校単位で決めるものなのか。

事務局

- 「14歳の挑戦」は平成11年度から取り組みを開始し、平成13年度からは市内の全中学校で実施している。学校の総合学習に位置づけられる中で、「元気な学校創造事業」を活用して地元企業の方を講師として迎え、熱心にキャリア教育に取り組んでいる学校もあると聞いている。特に呉羽中学校はキャリア教育に熱心なようだ。

委員

- ・ 52ページに「高等教育の振興」に関する現状と課題が記載されているが、人口減少の中で県外の大学に進学した後、富山市に戻ってくる学生が少ないことが大きな問題になっている。男性は60%が戻ってくるが、女性は40%しか戻ってこない。女性にとって魅力的な勤務先が少ないとも言われている。
- ・ 現在の教育制度の延長では県外に人材が流出し、地域社会の担い手がなくなってしまうのではないかと。高卒者は争奪戦になっているとも聞く。富山市は製造業比率が高く、高齢者や女性の就業促進にも限界がある。学校や過程が連携し、小中学生の頃から郷土愛を植えつける必要がある。

部会長

- ・ 富山大学にはものづくり・デザイン科が設置されているが、設置から10年経つこともあり、そろそろ効果の検証が必要だろう。
- ・ 地域にはものづくりの伝統がある。地元の企業の良さを知ってもらうことは重要である。

事務局

- 呉羽地区は比較的コミュニティのまとまりが良い地域で、地域でコミュニティバスの運営等にも取り組んでいる。商工会が中心となり、キャリア教育の受入れにも積極的だと聞いている。地域のコミュニティの力、絆も含めて検討していく必要があるだろう。
- 基本計画の中にどのように入れていくのか、総合計画ではなく個別計画の中で対応することも含めて検討したい。

委員

- ・ 学校から、地域住民に講師になってもらえないかという話をいただくこともある。取り組みを行うかどうかは先生方の姿勢によるのではないかと。

委員

- ・ 現在、土曜日に希望する学生を募り、学校の許可も得て、学生にお母さんと赤ちゃんに遊んでもらうという取り組みを行っている。赤ちゃんとの遊びを通じて赤ちゃんの可愛さを学ぶことは、将来のことを考える上でも非常に良い経験になる。

- ・ 総曲輪の跡地にケア拠点ができると聞き、非常に期待しているところである。人材を集めるのも大変だと思うが。「子育て支援センター」という看板を掲げて取り組んでおられることは非常に心強く感じている。

委員

- ・ 富山市民病院のネットワークについて、医師会としてはどのようにお考えなのか。医療の高度化など、研究されていることをもっと PR するということも考えられるのではないか。

委員

- ・ 市民病院がもともと持っていたネットワークを基盤として、情報共有ネットワークはすでに構築されている。今後、介護を含めてネットワークを活用していこうとしているところである。
- ・ 富山県の中央病院では明確な取り組みの方向性が打ち出されており、富山市民病院についてもどういった機能を充実させていくのか、明確な方針を出していただけると良い。
- ・ 地域包括ケアシステムの「地域」にしても、用いられる考え方はその時々でばらばらである。実情にあった形で施策をとりまとめていけると良いのではないか。

部会長

- ・ 国の政策自体が縦割りで、あちらこちらで似たような言葉が使われているが、医療や介護等の垣根を越えたネットワークや中核機能を持つ拠点の整備は必要ということだろう。

委員

- ・ 基本計画では医療や介護の連携の必要性が書かれているが、市民からすると良く分からないというのが実態である。富山市としての総合計画として、なぜ地域包括ケアセンターの位置づけが必要になるのか、全国的に財源が限界に達しようとしていることを含め、市民にしっかり理解してもらう必要がある。地域の自立を生み出すために、地域包括ケアセンターの司令塔はどこなのか、中学校区でのリーダーは誰なのかということを一般市民に啓蒙することが必要ではないか。
- ・ そうした中で、市民病院に対しては強力なリーダーシップで地域の医療と介護の連携を進めていくことが求められていると思う。
- ・ 市営の在宅医療支援施設は全国でも初の試みで、非常に思い切ったチャレンジをされていると思う。ぜひ成功させて、結果的に医療・介護費が削減に寄与したところまでを示してほしい。

部会長

- ・ 市民に期待する役割について、少し遠慮した書き方になっているようにも思う。市民に事業に参画いただく等、もう少し踏み込んでも良いのではないか。

委員

- ・ 事業の背景が十分に説明されていないとも感じる。

委員

- ・ 選挙権が 18 歳以上に引き下げられた話もある。嫌だといえる若い世代を増やすことも必要だろう。
- ・ 49 ページに「情報モラル教育」についての記載があるが、もう一段階上の概念として、取捨選択や比較を含む「情報リテラシー教育」に修正いただけないか。

部会長

- ・ 生活困窮者の支援や外国人の生活支援についてはどうか。

委員

- ・ 住みやすい地域づくりについて、地域の各種団体を集めて情報交換会をする取組がある。これは他にはない新しい取り組みと言えるのではないか。また、おでかけ定期券利用者に対して GPS 等を使った分析をされると聞いた。私自身も対象者だが、こうした新しい取り組みは委員の皆さんにも宣伝していただきたい。

事務局

- 大学との連携で、主に高齢者の外出機会を増やすことを目的にデータで外出行動の実態を把握するもので、ゆくゆくは健康増進や医療費の削減につながれると良いと考えている。まずはどういったデータを取得できるかを把握するために、実験を行っている段階である。

部会長

- ・ 部会はもう 1 回予定されている。委員の皆さんにはまたご発言いただければと思う。

事務局

- 次回は 10 月 24 日（月）14:00～を予定している。後日改めてご案内する。

以上